



Journey to a New Era for Alzheimer's Disease

AD/PD™ 2024

1

2

CONy 2024

3

AAIC 2024

米国、フィラデルフィア、
7月28日～8月1日



専門家の討論



シャロン・A・ブラングマン

米国、ニューヨーク州、
SUNY アップステート医科大学



アルゴンデ・ヴァン・ハルテン

オランダ、
アムステルダム UMC



ジェンマ・サルヴァドー

スウェーデン、
ルンド大学

アミロイド標的治療の実社会での結果と、
体液バイオマーカーに対する臨床現場の準備状況：
AAIC のハイライト

要約のスライド



リリー社からの教育助成金による支援を受けています。

 Springer Healthcare IME

適時診断の重要性

AAIC の会議要旨とは？

1

AD/PD

2

CONy

3

AAIC

血液ベースバイオマーカーおよびアミロイド標的療法（ATT）に関する臨床データが発表され、より早期の診断と治療介入への道が開かれた。

専門家の見識

- 適時診断は、アルツハイマー病（AD）に起因する軽度認知障害（MCI）を有する患者や早期 AD 患者を同定するために不可欠であり、以下のことを可能にする。
 - ATT などの疾患修飾治療法に適格である可能性がある患者の同定。
 - アドバンス・ケア・プランニングおよびサポートシステムの強化。
 - 患者の状態を明確に知らせることによる、患者のストレスの軽減。
- 特別な訓練を受けたプライマリケア医、老年科医、神経科医が世界的に不足していることが、適時診断にとっての大きな障壁である。
 - 医療資源の限界や現在のワークフローは、診断が下された場合の適切なフォローアップとケアの実現にも、強く影響する。



臨床現場での血液ベースバイオマーカーの使用



AAIC の会議要旨とは？



血液ベースバイオマーカーが AD のトリアージプロセスを改善する可能性を示すデータが発表された。血液ベースバイオマーカーは、プライマリケアにおいてもセカンダリケアにおいても、AD 病態を予測し診断正確度を高める可能性があることが、新しい臨床エビデンスによって示されている。

専門家の見識

- 血液ベースバイオマーカーは、早期 AD の段階的な鑑別診断において重要な役割を果たす可能性があるが、承認された場合には慎重な実施が必要とされる。
 - 血液ベースバイオマーカーは、初期のトリアージに大きく役立つ可能性がある（現在のワークフローでは、高価であり保険契約でカバーされないことも多い PET スキャンか、侵襲的な腰椎穿刺が必要である）。
 - 現在の研究は、多様な集団を扱っていないため、研究結果から一般論を導き出すには限界がある。
 - 偽陽性や偽陰性が生じる場合があるため、自信を持って診断を確定するためには、確立されたバイオマーカー（例えば PET）が依然として必要であると思われる。
- マルチマーカー評価において様々なバイオマーカーを組み合わせることは、各患者の固有の病態を同定する個別化された医学的アプローチの助けとなり得る。
- 医療提供者が、新しい血液ベースバイオマーカーを理解し、新たなワークフローの一環として効果的に使用できるようにするためには、かなりの教育活動が必要となる。
 - 血液ベースバイオマーカーは、専門医の診察を受ける必要がある患者を選別するためのプライマリケアにおいて有用となる可能性がある。

アミロイド標的療法（ATT）の実施



AAIC の会議要旨 とは？



ATT の有効性と安全性に関する最新データが発表された。専門家が、有効性、アミロイド関連画像異常（ARIA）リスク、投薬に焦点を当てて、ATT の治験結果をどのようにして臨床に活用できるか検討した。

専門家の見識

- ATT の適格性を判定する際に、適切な使用基準を考慮することが重要である。
 - MCI のある患者または早期 AD 患者にのみ、推奨される。現在のところ、この時期を過ぎると効果はみとめられなかった。
 - 血管系併存疾患および抗凝血薬の使用は、主要な禁忌である。
 - *APOE4* 検査については議論が交わされており、使用する場合は遺伝カウンセリングが必要である。
- 例えば、最適な治療期間や、アミロイドが除去されたら治療を止め、再び発生したら再開すべきかといった、まだ答えが出ていない問題がある。
- これらの治療法を安全に実行するには、複雑なインフラストラクチャー、例えば、複数の専門家の協力、幅広い検査、患者のモニタリングなどが必要である。
 - このため、資金が不十分な地域の患者は治療利用機会が制限され、医療格差を大きくする可能性がある。
- 研究者らは、タウマーカや神経炎症マーカなど他の候補を探しており、これらによって、より包括的で複数の指標を用いる治療アプローチが実現するかもしれない。
 - 将来的には、抗アミロイド治療法と他の標的治療を組み合わせることにより、個々の患者の病態に基づいて治療を適応させる、個別化が一層進んだ医学的アプローチを使用する可能性がある。
- 共同意思決定が非常に重要であり、医療提供者と一般の人の双方の継続的教育が、これらの新しく出現した複雑な治療法をうまく使いこなすために不可欠である。

アミロイド関連画像異常（ARIA）



AAIC の会議要旨とは？



ATT（ドナネマブ、レカネマブ等）の安全性に関する臨床データ（これらの治療法に関連する ARIA のリスクに関するデータを含む）が、考察された。

専門家の見識

- ARIA は、長期的な影響と臨床的意義が不明であるため、ATT を受けている患者における大きな懸念である。
- 脳腫脹や出血などの ARIA のリスクを説明することによって、症状が軽度であっても無症候性であっても、患者が不安を持つようになる場合がある。
- ARIA を効果的に管理するには、徹底した MRI モニタリングと注意深い記録が必要であり、医療システムに運用上の課題をもたらす。
- ARIA の正確な診断は、熟練した神経放射線科医が行う必要があるが、すべての医療施設でこれが可能なわけではない。
 - 人工知能（AI）がこの分野の役に立つ可能性があるが、現在の AI モデルは安全性を確保するのに十分な信頼性はまだなく、さらなる研究が必要である。
- ATT の実施とモニタリングに対する標準化されたアプローチを確立することが、患者の安全性にとって非常に重要である。

要約

AAIC 2024 では、早期 AD 患者の転帰を改善する可能性がある血液ベースバイオマーカーおよび ATT の著しい進歩が発表された。しかしながら、診療においてこれらの進歩を実施するには、いくつかの主要な考察が重要である。



適時診断

AD の適時診断は、ATT やアドバンス・ケア・プランニングに適格な患者の同定を可能にするために、非常に重要である。しかし、訓練を受けた医療従事者の不足やコストが、適時診断にとっての大きな障壁であり、世界的な課題となっており、医療資源の効率的な使用が求められる。



血液ベースバイオマーカーについてのさらなる研究

血液ベースバイオマーカーは、早期 AD の診断に有益であり得るが、慎重に実施する必要がある。血液ベースバイオマーカーは、初期のトリアージ（治療・緊急度評価）に役立ち、PET や CSF のような確立した手法を補完する可能性がある。しかし、現在の研究は多様性を欠いており、効果的な使用を確実にするためには、かなりの教育活動が必要である。



ATT の最適な実施

早期 AD 患者は、ATT の恩恵を受ける可能性がある。しかし、ATT には、慎重な患者選定、総合的なモニタリング、臨床医と患者との共同意思決定が必要となる。ATT の利用機会が、十分な資金に恵まれた施設の患者に限定されないように、さらに研究して最適な治療期間とワークフローを明らかにする必要がある。将来的には、他の標的治療が ATT を補完して、個別化されたアプローチを作り出すことが可能になるかもしれない。



アミロイド関連画像異常（ARIA）モニタリングの最適化と標準化

ARIA は、長期的な影響と臨床的意義が不明であるため、課題がある。ARIA の管理には、熟練した神経放射線科医による徹底した MRI モニタリングが必要であるが、これは操作が非常に難しい場合があり、常に可能とは限らない。ATT モニタリングの標準化が安全性のために非常に重要であるが、利用格差と特殊な専門技術の必要性によって制限される可能性がある。

さらなる情報源

弊社の**ニュース**を読む。
AAIC で発表されたデータの詳細な要約。

弊社の**最新知識**を視聴する。
AAIC 参加者への現地でのインタビューによる、発表されたデータやテーマに関する見識の共有。

弊社の**概要**から知識を得る。
ダウンロード可能な資料（インフォグラフィック）に記載された、AAIC で発表された重要な進展の要約。



Journey to a New Era for **Alzheimer's Disease**